令和４年度

事業報告書

社会福祉法人　邦知会

（目　　次）

○社会福祉法人　邦知会　Ｐ．　１

○ユートピア広沢・リバーサイド広沢（全体総括）　Ｐ．　３
特別養護老人ホーム　ユートピア広沢（全体）　Ｐ．　４
特別養護老人ホーム　Ａグループ　Ｐ．　５
特別養護老人ホーム　Ｃグループ　Ｐ．　６
地域密着型特別養護老人ホーム　Ｄグループ　Ｐ．　８
ケアハウス　リバーサイド広沢グループ　Ｐ．１０
医務グループ　Ｐ．１０
栄養グループ　Ｐ．１１
ショートステイグループ　Ｐ．１２
デイサービスグループ　Ｐ．１３
居宅介護支援グループ　Ｐ．１３
桐生市地域包括支援センター　Ｐ．１４
○ケアハウス　サンフラワー広沢　Ｐ．１５
○養護老人ホーム　サンロイヤル広沢（全体総括）　Ｐ．１７
養護　Ａグループ　Ｐ．１８
養護　Ｂグループ　Ｐ．１９
介護支援グループ　Ｐ．２０
医務グループ　Ｐ．２０
栄養グループ　Ｐ．２１
○ハーモニー広沢・ハートフル広沢（全体総括）　Ｐ．２２
特別養護老人ホーム　ハーモニー広沢（全体）　Ｐ．２３
特別養護老人ホーム　Ｂグループ　Ｐ．２４
特別養護老人ホーム　Ｃグループ　Ｐ．２６
特別養護老人ホーム　Ｄグループ　Ｐ．２８
ケアハウス　ハートフル広沢グループ　Ｐ．３０
医務グループ　Ｐ．３０
栄養グループ　Ｐ．３１
ショートステイグループ　Ｐ．３２
デイサービスグループ　Ｐ．３２
ホームヘルプサービスグループ　Ｐ．３３
居宅介護支援グループ　Ｐ．３４
○グレイス広沢　Ｐ．３５
生活支援グループ　Ｐ．３５
ホームヘルプサービスグループ　Ｐ．３６
定期巡回・随時対応型訪問介護看護グループ　Ｐ．３７
訪問看護グループ　Ｐ．３７

社会福祉法人　邦知会

令和４年度は、新型コロナウイルスが猛威を振るう中、法人の設立２５周年という節目を迎えた年度となりました。邦知会では、新型コロナウイルス流行の影響によって失われた様々な「つながり」を回復し、未来への事業継続性をより確かなものにしていくこと、そして法人内の結束力・団結力・連帯力を高め、前年度から下書きを始めた私たちの「未来図」をよりはっきりと描き出し、希望のあるものにしていくことを目指し、全体スローガンを、『つなげよう、希望ある未来へ』とし、各重点目標に沿った取り組みを行いました。

個別重点目標の①である**「サービス提供関係」**については、前年度に引き続き、国が進める「ＬＩＦＥ（科学的介護情報システム）を活用した科学的介護の推進による自立支援、介護予防、重度化防止の推進や、機能訓練・口腔ケア・栄養ケアの強化を行いケアの質を高め、生活満足度の向上に取り組みました。また認知症対応力の強化や本人の意思を尊重した看取りへ取り組みを進めました。

地域共生社会の理念を踏まえ、将来の地域の福祉ニーズに対して包括的に対応していくため、医療・介護の連携強化、ソーシャルワーク機能の充実と虐待防止の推進、身体拘束廃止に向けた取り組みを継続しました。

個別重点目標の②である**「感染症対策および大規模災害への対応」**については、安定的・継続的にサービスを提供するため、新型コロナウイルスをはじめとする各種感染症の流行を想定したＢＣＰ（業務継続計画）の見直しを行なうとともに、感染の流行を想定した予防対策を継続し、安全安心を最優先したサービス提供を行ないました。

また防災面においても、大規模自然災害を想定したＢＣＰ（業務継続計画）の見直しを行い、法人合同の総合防災訓練および水害対策訓練を実施しました。

個別重点目標の③である**「職員処遇関係」**については、介護ロボット等のＩＣＴ機器等のさらなる導入による生産性の向上と、業務負担軽減を図るための取り組みの継続を図るとともに、職員が仕事と育児・介護を両立できるための取り組みの継続とワーク・ライフ・バランスの推進、職員の心身の健康増進への取り組みの継続、人事考課制度の適切な運用に取り組みました。

また研修については、コロナ後を見据え、外部の方との繋がりが増加することが予想されることから、職員全員を対象とするマナー講習を行い、接遇のあり方について再確認するとともに、胃ろう・たん吸引関係研修の実施や各種研修の受講支援、資格取得を目的とした勉強会等も実施し、職員のスキルアップを図りました。

個別重点目標の④である**「地域貢献関係」**については、引き続き「群馬県ふくし総合相談支援事業」への参加により、地域の相談・サービスの総合窓口となるよう努めました。また前年同様コロナ禍のため、認知症カフェの運営等は中止となりましたが、介護職員初任者研修については万全な感染予防対策の上実施し、１０名の修了者を送り出すことができました。また地元消防団や災害派遣福祉チームへの職員派遣といった地域貢献活動も継続して行いました。

個別重点目標の⑤である**「法人経営関係」**については、修繕計画に基づいた設備の更新による施設の長寿命化、および環境整備による施設の魅力の向上を図るとともに、外灯やホールといった照明設備についてＬＥＤ化を行なうなど、省エネ化およびＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）への取り組みを進めました。

介護人材不足に対応するための外国人雇用の推進については、インドネシアからの技能実習生を５月に３名、同じくインドネシアからの特定技能外国人職員を１０月と３月にそれぞれ２名採用し、年度中に計７名の受入を行ないました。

またサービス利用者及び待機者の確保のための窓口拡大を目的として、各サービスの特徴や強み（売り）を、わかりやすく外部に発信することができるよう、サービス紹介資料を作成するとともに、法人ホームページやツイッター、インスタグラムなどのＳＮＳを活用し、他法人との差別化を推進しました。

また法人設立２５周年にあたり、新型コロナウイルス流行により記念行事を開催することが困難であったため、記念品を作成し職員及び関係者に配布し、法人の四半世紀の歴史を祝いました。

令和４年度も新型コロナの流行は繰り返し、法人内施設においてもクラスターが発生するなど前年度同様、対応に追われる１年間となりました。

しかし感染者の発生が避けられないような社会の状況の中であっても、ゾーニング等の感染拡大予防対策により、その後の感染拡大を最小限に抑えることができたのも職員一人ひとりの努力のたまものであると考えております。

また、光熱水費や物価の高騰という新たな問題が浮上するなど、経営上における問題・課題は後を絶ちませんが、次年度も感染予防対策を実施し、ご利用者に安心安全なサービスが継続して提供できるよう、これらの困難を乗り越え、私たちの「希望ある未来」を実現するために努力を続けてまいります。

ユートピア広沢・リバーサイド広沢（全体総括）

『あなたの気持ちを大切にします』
～ご利用者が望む暮らしのために～

『基本方針』

◆　私たちは、お客様の声を良く聴き、個性や気持ちを尊重して、ご本人の望むより質の高い暮らしが送れるよう支援していきます。

◆　私たちは、『自分で選び、自分で決定出来ることが自立である』とする考え方に立ち、専門性に裏付けされた支援を実践することにより、お客様とご家族が安心していただけるサービスの提供に努めます。

◆　私たちは、積極的に自己研鑽を行ない、柔軟な発想を持って日々変化する物事に迅速に対応できるよう努めます。

◆　私たちは、社会福祉法人の役割として「群馬県ふくし総合相談支援事業」などの公益的な取り組みをはじめとする地域貢献活動や、介護人材の育成、『地域の皆様に必要とされる施設』を目指します。

◆　私たちは、感染症や災害時の対応が求められる中、安全と安心を最優先に考え、安定的・継続的にサービスを提供できるよう努めます。ご利用者ご家族、地域の方々、職員、ユートピア広沢にかかわるすべての人とのつながりを大切にし、現在から未来へのつながりをより確かなものにするために『つなげよう、希望ある未来へ』のスローガンのもと一層の努力をしてまいります。

『総　括』

令和４年度は、引き続き新型コロナウイルスによる感染予防対策を行ってまいりました。そんな中でも、ご利用者・職員数名が新型コロナウイルスに感染してしまいましたが、感染区域とクリーン区域を分け、基本的な感染対策の徹底を行うことで、他部署まで拡大することなく終息することができました。また警戒度や感染状況に応じて、直接面会やＷＥＢ面会・窓越し面会の実施、電話や写真で近況をお伝えすることでご家族に安心して頂けるよう努めてまいりました。また、インドネシアから技能実習生、特定技能外国人併せて３名の職員を迎えました。明るくまじめに取り組む姿勢が他職員にも良い刺激となり、職員間のコミュニケーションも取れており、良好な関係が築けています。

施設サービスにおいては、特養定員６０名の中、半数以上の入れ替わりがありました。新規ご入居者の傾向としては、医療面での対応が必要な方が多く、医師や看護師・他職種間での連携を密に行いながら対応しております。感染症対策が継続される中、ご入居者・職員共に、ご家族との関係が希薄なものにならないよう対応を考え実践し、信頼関係の構築と安全安心に努めてまいりました。

在宅サービスにおいては、新しい生活様式に則り、感染症予防対策を徹底し、ご家族や関係各所との連携を図り、ご利用者に安全安心なサービスを提供してまいりました。

地域包括支援センターでは、令和４年度はアフターコロナに向け地域での活動が再開されました。認知症カフェの運営支援や、脳いきいき教室終了時に住民同士がつながる機会を作り、現在もサロンとして継続しています。また、災害時の協力や支援につなげるため、地区の防災訓練に参加し自治会等に覚えていただきました。

今後も感染症対策をしっかり行いながら、ユートピア広沢・リバーサイド広沢が皆様から信頼され、安心していただけるサービスを提供できるよう努力してまいります。

特別養護老人ホーム　ユートピア広沢（全体）

『基本方針』

◆ 科学的介護を進め、根拠に基づく伴走型自立支援を実践し、ご入居者が望むケアを実践します。

◆ コロナ禍においてもご家族に対してご入居者の近況をお伝えすることで、信頼関係の構築と安心感をお届けいたします。

『総　括』

令和４年度は特養２６名、地域密着型特養１０名、合わせて３６名の退居があり、特養２０名、地域密着型特養８名の方がユートピア広沢で最期を迎えられました。新規で入居される方の中には、入居する段階で看取り支援が必要な方もおり、入居から退居までの期間が短くなる傾向が強くみられています。

今年度の入退居者が多い中、また新型コロナウイルスによる感染対策が継続する中、ご家族との関係性の構築に積極的に取り組んでまいりました。電話やお手紙での近況報告だけでなく、できる限り顔を合わせてお話しをする機会を確保できるように努められたと考えます。

ご入居者の状態変化や制度的にも求められることが多くなる中、より一層部署内での連携・多職種間での連携を図ると共に、ユートピア広沢全体での協力体制の構築につなげていきたいと考えます。

特養ユートピア広沢　Ａグループ

『ご入居者とのつながりを大切にします』

『基本方針』

◆　ご入居者の要望を丁寧に聞き取り、多職種と連携を強化しながら、ケアプランに反映した支援を行います。
◆　ご入居者が快適に過ごせるよう感染予防に努め、生活環境をきれいに整えます。
◆　職員が働きやすい職場環境を作り、職員同士のつながりを強化していきます。

『総　括』

今年度も新型コロナウイルスの感染対応に追われることが多く、職員だけでなく職員の家族にも感染が続いたことにより、ご入居者対応に影響が出てしまったと感じる１年でした。ご家族の面会にも制限があり、ご入居者職員ともにご家族との関係が希薄になりやすい状況でしたが、ご入居者の近況や小さな状態変化をご家族になるべくお伝えするよう努めました。

ご入居者の入れ替わりも多くある中、来年度もグループ職員全員が情報を把握できるように対策を考え実行していくと共に、担当ご入居者の事にもしっかりと向き合って対応できるようにしていきたいと考えます。

サフランユニット

『援助方針』

◆　ご入居者に寄り添い、望みの生活が送れるように支援します。
◆　情報共有をこまめに行い、ご入居者の状態に合わせた支援が出来るようにします。
◆　ご入居者が笑顔で楽しめる行事を計画します。

『総　括』

今年度はご入居者６名の入れ替わりがあり、新規ご入居者の対応方法についての情報共有に課題が残りました。来年度はこまめな情報共有を図ると共に、連絡体制についても再確認し、ご入居者に寄り添えるケアが出来るよう努めていきます。

年間行事については、外出行事はできませんでしたが、おやつ行事や昼食行事を行い、喜んでいただきました。来年度もご入居者やご家族にも意向を確認しながら楽しんでもらえる行事を実施していきたいと考えています。

フリージアユニット

『援助方針』

◆　ご入居者の声に耳を傾け、気持ちを汲み取り支援につなげます。

◆　ご入居者の小さな変化を見落とさないよう職員同士の声掛けを多くします。

◆　快適な暮らしの場となるよう感染予防を行い、ご入居者の生活環境を整えます。

『総　括』

今年度は急な体調変化や入院が多く、対応方法を変更することが度々ありましたが、ユニット職員間では共通認識は出来ていたと感じています。しかし業務に追われ、担当のご入居者と関わる時間を十分取れなかったため、担当のご入居者と会話する時間やより細かいケア・環境整備に充てる時間を確保できるよう、来年度は業務整理を考え実行していきたいと考えます。またご入居者の体調変化に日々留意しながら快適に過ごせるよう、ユニット全体で検討し行動に移していきます。

特養ユートピア広沢　Ｃグループ

『よりよい環境づくりのために職員のスキルアップを目指します』

『基本方針』

◆　ご入居者の望む暮らしが継続できるよう一人ひとりの意向を大切にします。

◆　専門職として根拠に基づく介護の実践を目指し、グループ全体のスキルアップに繋げていきます。

◆　ご入居者と一緒に笑顔が集う時間を過ごせるよう感染情報を収集して対策予防に努めます。

『総　括』

令和４年度はご入居者半数以上の入退居がありましたが、緊張感を持ちながら職員同士が適切に情報共有を行い、状態に合わせた対応や状態変化に早めに気づくことを意識し、日々の支援を行いました。コロナ禍の中での看取りを進める中で、ご家族と過ごせる場所や最期を迎えるまでの時間をどのように過ごしてもらえるかを考え、実践し、そしてご家族から感謝の言葉をいただいたことは、職員のモチベーションアップにつながりました。またご入居者の新型コロナウイルス感染がなかったことも職員の自信にもつながったと考えます。

インドネシアからの特定技能外国人が新たな仲間として加わり、その指導を行うことによって、新たに自分達の支援方法を振り返ることができる年でもあったと思います。

ユニット体制からグループ体制となる次年度に向け、職員間で報告・連絡・相談を行いながらしっかり準備し、職員一人ひとりがスキルアップできるよう努めていきたいと考えます。

ヒマワリユニット

『援助方針』

◆　ご入居者一人ひとりの思いや意向を大切にします。
◆　円滑な情報共有ができる雰囲気づくりに努め、支援に反映します。
◆　安心した気持ちで生活が送れるよう感染対策を行います。

『総　括』

特定技能外国人を１０月より迎え入れ、言葉や生活習慣の壁を越えご入居者の支援が円滑にできるように情報共有を行なってきました。まだまだ課題は多いですが、その課題を明確にし、グループ化の特性を活かし、より良い支援につなげていきます。ユニット入居者の重度化により、支援の難しさを感じる場面が多くなってきていますが、言葉や仕草からも意向や思いを汲み取れる関係づくりも引き続き努めていきます。

パンジーユニット

『援助方針』

◆　ご入居者の意向を大切にしてその人らしい生活が送れるよう支援します。
◆　状態に合わせた支援ができるよう情報収集、情報共有に努めます。
◆　ご入居者一人ひとりが落ち着いた生活が継続できるよう感染対策に努めます。

『総　括』

ご入居者の入退居が多かったため、情報の発信をより早く正確にできるように努めてきました。来年度は発信した情報が共有されているかの確認を強化し、グループ化に伴うチームの情報共有方法の見直しを図っていきます。

地域密着型特養ユートピア広沢（Ｄグループ）

『つながりを大切にして、みんなの笑顔を増やします』

『基本方針』

◆　ご入居者の「自分らしさ」を充実させ、生活満足度を高めていきます。
◆　人と人とのつながりを大切にして、みんなの笑顔を増やしていきます。
◆　専門職として根拠ある介護と丁寧な対応を積み重ね、ケアの質や信頼関係を高めていきます。

『総　括』

令和４年度は、コロナ禍が続く中で、「つながり」に重点を置き、ご入居者とご家族、職員のつながりを大切にすることで、ご入居者一人ひとりの生活満足度の向上を目指しました。また、職員間の連携を充実させることで、働きやすい職場つくりに取り組んできましたが、年間で１０名のご入居者の入れ替わりがあったため、ご入居者の状態変化に合わせた支援の見直しや新規ご入居者の状態把握等に追われた１年でした。退居者１０名中、看取り支援で退居されたご入居者が８名。入院治療のため、退居されたご入居者が２名。看取り支援に関しては、コロナ禍でもご入居者とご家族が最期の時間を安心して、大切に過ごしていただける様に配慮しながら支援することができたため、今後もご入居者・ご家族の気持ちに寄り添い、丁寧な対応を継続していきます。

職員間の連携については、技能実習生の配属もあったため、今まで以上に職員同士で声をかけ合うことや、申し送り等も相手にわかりやすく伝えることができるようになったと思います。また、勤務時間の見直しや業務内容を整理することができましたが、ご入居者の変化に合わせた業務やケアの見直しが今後も必要となるため、適宜おこなっていきます。その為にも職員一人ひとりが積極的に意見を出し合える環境が大切となるため、これからも取り組んでいきたいと考えます。

サザンカユニット

『援助方針』

◆　ご入居者の安心・安全に繋がる関わりを増やしていきます。
◆　その人らしい暮らしができるよう、こだわりを大切にしていきます。
◆　ユニットがより良くなるために職員一人ひとりが考えて行動に移します。

『総　括』

今年度もコロナ禍であったため、外出することが難しく、室内での行事が中心となってしまいました。しかし、昨年度の反省を活かし、行事の内容も飲食するだけ

でなく、その過程を楽しんでいただいたり、飲食以外のものを取り入れたりすることができました。季節感を大切にして、昨年度好評だったものは残しつつ、新しい行事も実施できたため、毎日の生活の中で、楽しみにつながったのではないかと思います。また、ご入居者と関わっていく中で、知り得た嗜好や認知症の状態、身体機能やご本人の想いを共有してケアに活かすことで、ご入居者により快適に過ごして頂くことができたのではないかと考えます。今後は緊急性が高く、すぐに対応が必要なことと、全員で話し合いを設けたほうがまとまること等、内容を整理しながら進めていき、ユニットとしてのつながりを強化していきたいと思います。

また働きやすい環境づくりのため、勤務時間の変更や業務の整理をおこないました。来年度も継続して取り組みながら、より働きやすい環境を整えていきたいと思います。

ヒイラギユニット

『援助方針』

◆　ご入居者の「自分らしさ」を充実させ、生活満足度を高めていきます。
◆　人と人とのつながりを大切にして、みんなの笑顔を増やしていきます。
◆　専門職として根拠ある介護と丁寧な対応を積み重ね、ケアの質や信頼関係を高めていきます。

『総　括』

上半期はご入居者の入退居も多かったため、各職員もユニット全体としても慌ただしくなってしまいました。その中でも各担当者が中心となり、ご入居者のご意向を伺いながら、支援につなげることができたと思います。業務に関しては、休憩時間の見直しと、業務の整理を行いました。グループで勤務時間をずらし、役割分担を明確にしたことで、有効に時間を活用することにつながったと考えます。また、ご入居者の状態・転倒リスクに合わせて、センサーや福祉用具を活用しながら安全面に配慮した生活環境を整えました。精神的に不安を感じているご入居者には、ご意向に対応することで、気持ちに沿ったケアを行うことができました。

年間行事については、食事を楽しみにされているご入居者が多かった為、食事関連の行事をメインに提供をさせて頂きました。季節を感じながら楽しんで頂ける行事が実施できたため、ご入居者に喜んで頂くことが出来たと思います。

来年度も引き続き、業務内容の見直し、ご入居者にとっての必要なケアの整理、働きやすい職場環境の構築を図っていきたいと思います。

ケアハウスグループ（リバーサイド広沢）

『ご入居者の快適な暮らしをサポートします』

『基本方針』

◆　ご入居者がその人らしく生活できるよう「情報を分かりやすくまとめ」「伝達」し「統一した対応」を目指します。

◆　ご入居者と一緒に笑顔が多い雰囲気づくりに努め、心と体の健康を第一に考え行動します。

『総　括』

令和４年度もコロナ禍の為、制限も多く外出出来ない時期や面会中止等もあり、ご入居者にとってはストレスの溜まる一年だったと思います。しかし、そんな中でも、ＷＥＢ面会など直接の面会以外の方法で、ご入居者の様子を定期的にご家族に伝えていく取り組みや、毎月施設内での行事を実施し、室内でも季節を感じて頂けるよう努めてまいりました。心と体の健康を第一に考え、笑顔を意識した取り組みとしては、行事以外にも、毎日実施している運動が継続できました。

令和５年度は、令和４年度にも基本方針で掲げていた「情報を分かりやすくまとめ伝達・統一した対応」を改めて掲げていきます。より迅速に対応の変更など、その方の「今」に合わせた支援が行えるように、定期的な話し合いの場を設け検討していきたいと思います。

ユートピア広沢　医務グループ

『あなたの気持ちに寄り添います』

『基本方針』

◆　体調に合わせた適切な医療を提供し、安らぎのある暮らしを支えます。

◆　一人ひとりの状態に合わせた、専門的な関わり（機能訓練・口腔ケア・ 褥瘡対策・排泄機能・栄養等）で生活の質を高めます。

◆　最期までその人らしい生活が継続できる様、他職種と協働していきます。

◆　感染症予防対策の周知徹底を行っていきます。

『総　括』

新型コロナウイルス感染症による感染予防を図るために、職員間での情報共有をしっかり行い、ご利用者・ご入居者の方々に対して、職員が一丸となって予防対策を実施することができた年でした。

年間行事については、医務グループ間で相談し協力し合いながら、年間計画に沿った実施ができました。今後もご入居者に寄り添い、安全で安心できる暮らしの支援ができるチーム、体調管理や精神面での心の支えになれるようなチームづくりを目指したいと考えます。

ユートピア広沢　栄養グループ

『丁寧な仕事を心掛けます』

『基本方針』

- ご入居者・ご利用者、一人ひとりの嗜好や健康状態に合わせた食事作りに努めます。
- 旬の食材や伝統行事を大切にし、美味しさや食事の楽しみを感じていただきます。
- 厨房委託業者・施設職員と協力し、献立作成や食事の提供方法、衛生面に注意を図りながら、『安全でおいしい食事・健康を維持できる食事』を提供します。

『総　括』

一人ひとりの嗜好や健康状態に合わせた食事が提供出来るよう、日々のミールラウンドや多職種との情報交換・共有を行い、個々の状態把握に努めてまいりました。日々変化する体調や状態に迅速に対応出来るよう、日頃から各部署と連携を密にとるよう努めてまいりました。今後もその方にとって適切な食事が提供出来るよう、日々の情報交換・連携を大切にしていきます。

旬の食材を使用し、季節感を楽しんでいただける食事の提供を行いました。また、季節の行事、伝統行事にそった献立作りを心がけました。郷土料理の提供では、毎月楽しみにされている方も多く、話題のきっかけにもなっています。感染症対策の為、全体での大きな行事の実施は難しいですが、ユニット・部署単位での食事関連の行事には協力を行ってきました。日常の食事、季節の食事、特別な日の食事など、メリハリのある食事提供を心がけ、彩りや盛り付けの方法でも食事を楽しんでいただけるよう努めてまいりました。

３施設共通献立は好評で、新しい料理が定番料理・定番献立となり、レパートリーが増え、食事がさらに楽しみになる、という良い循環が生まれています。他施設の栄養士・厨房間での情報交換の機会も増え、良い刺激にもなりました。献立内容や提供量、提供方法等、日々の課題・問題点を厨房職員と共有し、次回にむけての改善方法を随時協議してきました。

食事の役割は身体の維持・健康の維持だけでなく、季節の移ろいを感じたり、楽しみを感じたり、心を豊かにしたり、と多岐にわたります。

食材、光熱費高騰が続く中ですが、食事が楽しみになるような献立の作成、食材の使い方・組み合わせの工夫、見た目・彩りの心配りで、これからも安全で美味しい食事・健康を維持できる食事、そして笑顔になれるような食事を提供出来るよう努めてまいります。

ユートピア広沢　ショートステイグループ（Ｂグループ）

『一緒に楽しい時間を過ごす』

『基本方針』

◆　職員一人ひとりが専門職としての自覚と責任を持ち、知識・技術の向上を図ることで、ご利用者の安心・安全な暮らしを支援します。

◆　職員間での細やかな情報共有に努め、ご家族・関係機関とも情報を共有するなど、関わる全ての人との連携でご利用者の生活を支えていきます。

◆　職員同士が声を掛け合い、助け合うことを意識してチーム力を高め、グループを超えた協力関係を目指します。

『総　括』

今年度は『一緒に楽しい時間を過ごす』というスローガンを掲げ、１１月まではコロナ禍でも感染対策を講じて行事を企画し、実施しました。特にドライブや夏祭りでの花火などは、ご利用者の明るい表情や笑顔が多くみられ、非日常を楽しんでいただくことができました。年度後半については、コロナ感染対策を強化していたことで行事の実施が困難となりましたが、施設内で楽しんでいただける機会の確保に努めてまいりました。

特養入所者の退所に伴いミドルショートの入退所も年間を通じて多くありました。また、新型コロナ感染症の影響を受けた面もありましたが、できる限り空床をなくし、円滑な入退所の調整が行えるように、居宅介護支援事業所や病院との連携を密にしていきたいと考えます。

ユートピア広沢　デイサービスグループ

『変わらない安心より上の信頼を目指して』

『基本方針』

◆　ご利用者、ご家族、関係事業所に安心してご利用いただけるよう利用中の様子や進捗状況の報告、職員間での細かな情報共有に努め、より質の高いサービス提供を目指します。

◆　リハビリ職による専門的な運動や各種トレーニング器具による多彩なメニューで、ご利用者のお体に合わせた効果的な運動を提供いたします。

◆　一人ひとりのニーズに合わせたリラクゼーション機器でのマッサージ提供や、様々な趣味活動の場を提供することで満足度の高い充実した時間を過ごして頂きます。

『総　括』

令和４年度も引き続きコロナ禍での営業となりましたが、感染症対策をしっかり行えた事で営業を継続することが出来ました。また、ご利用者の満足度に対する意識を常に持ち、コロナ渦での日頃の関り方や行事の工夫なども意識的にしっかり行えました。今後も感染症対策を踏まえた上で、ご利用者様に安心してサービスを受けて頂けるよう努めていきます。

機能訓練においては、職員の入れ替わりがありましたが、提供する内容としては年間を通して質を保つ事が出来ました。今後はプログラム内容の質の向上や工夫、差別化を図れるように取り組んでまいります。

これからもお客様の満足の為に常に新しいことを考え、実践と考察を繰り返し行い、より充実したサービスが提供できるデイサービスを目指してまいります。

ユートピア広沢　居宅介護支援グループ

『丁寧・連携・専門性』

『基本方針』

◆　グループ内連携を基盤に、法人内外の多職種との連携を図りご利用者、ご家族の支援に努めます。

◆　地域の頼れる相談窓口となれるよう努めます。

◆　ノートパソコンやプリンターを持参しての訪問や、メール・ＦＡＸの活用などで業務の効率化に取組みます。

『総　括』

今年度もコロナ禍の中での業務でしたが、十分に感染対応しての個別訪問やご利用者やご家族の不安に寄り添い必要な情報提供や調整ができたことは信頼につながったと思います。また部署ミーティングや研修により個々職員のＩＣＴ活用に対しての取組みも前進しましたが、訪問先のネット環境の影響でノートパソコンの活用は成果が上げられず残念な点もありました。グループメンバーの入れ替わりにより業務の見直し点も見えました。来年度は業務改善を形にし、変化に柔軟に対応できる事業所づくりを目指し、地域の頼れる相談窓口になるよう努めます。

地域包括支援センター　ユートピア広沢

『地域と繋がる』

『基本方針』

◆　地域の団体や関係機関等との連携を図り、地域の課題に取り組みます。
◆　災害時支援と平時の備えを検証し関係機関と連携の上、具体化を目指します。
◆　地域ケア会議等を活用し他機関との連携を強化します。

『総　括』

今年度は新型コロナウイルスとの共存やアフターコロナに向けた動きがあり、地域での活動が再開されました。認知症カフェが２ヵ所、定期的に開催されるようになり、介護予防及び認知症支援の一環として参加し、運営を支援しています。また、脳いきいき教室終了時に介護予防の継続と地域づくりに向けて、住民同士が繋がる機会を作りました。現在もグレイス広沢にてサロンを継続しています。

地域づくりでは、最も重要な課題のひとつである災害時の協力や支援につなげたく、１３区で開催された全ての防災訓練に職員が参加しました。自治会や関係機関の方々に包括の顔を覚えていただくことができ、周知活動の成果が現れてきています。一方で社協を中心に行っている協議体の発足や地域をあげての認知症支援、地域課題への取り組みは、住民の理解が得にくい状況が続いています。総合相談については、複合的な課題で支援困難なケースが年々増加していますので、関係機関と連携した支援を行っています。

この３年間で地域に出向く機会が減り続け、関わりが希薄化したことが課題です。これからはアウトリーチを念頭に置き『地域とつながる』をテーマに地域づくりや介護予防、包括的支援体制の強化に取り組んでまいります。

ケアハウス　サンフラワー広沢

「快適な生活と安全を」
～一人ひとりの想いに寄り添い丁寧・迅速な対応～

『運営方針』

◆　法人理念である「他人（ひと）の痛みを我が身の痛みとして感じ、心の通う介護」に基づき、ご入居者の誰もがお互いの人格を尊重し、支え合い、生き生きと生活できるよう支援します。
◆　住み慣れた場所で、ご入居者お一人おひとりの思いを実現できるようご本人の意向に合わせた自立支援を追求し、生活満足度の向上を目指します。
◆　地域、関係機関、事業所と連携し、感染症や災害への対応を万全なものとし、ご入居者・ご家族の安心安全なサービスの確保に努めます。
◆　自己研鑽を行い、柔軟な発想で変化に対応できる力の育成に努めます。

『基本方針』

◆　ご入居者が安心して生活が出来るように、他部署・多職種と連携を図り、日々の状態把握に努め、状態変化に早期発見が出来るように努めます。
◆　ご入居者の様々な状況や背景をしっかりと把握し、サービスを適切にご利用いただけるよう支援していきます。
◆　ご入居者やご家族、地域の方々からのご相談やご要望には、丁寧かつ迅速に対応するよう努めます。
◆　コロナ禍でも日々の暮らしが楽しめるように、感染対策に十分配慮しながら、サービスの提供をいたします。
◆　法人内外の研修に参加し知識を深め、ご利用者の対応には臨機応変に対応が行えるよう心掛けます。

『総　括』

今年度は、ご入居者・職員から新型コロナウイルス感染症の陽性者が出ました。感染拡大防止のための対応について、保健所と他の施設と連携を図り、ご入居者の皆さまからもご協力をいただき、収束することが出来ました。その後は、予防対応策を強化しながら感染者発症前の生活に戻ることに努めました。しかし、居室内で過ごしていた期間に、筋力低下やストレスもあり、改めて普段の生活の大切さやご家族との関わりがご入居者の心身の健康にとって重要であることを感じました。ラジオ体操やミニレクリエーションなども、集まるリスクを鑑み、動く動機づけにもなるように全館放送でラジオ体操を放送し、お部屋内でも体を動かせるような取り組みも行いました。

面会・外出の制限は継続しつつも、状況に合わせた面会も再開することもでき、特に対面での会話は笑顔につながり、何よりも心の安定・安心につながりました。

一方、入館の制限のある中、直接ご家族の支援が受けられないことや、状態の変化のある方も多くなり支援が必要な場面が増えてきております。ご入居者の状態の変化に合わせ、介護保険申請のお手伝いや介護度の見直しなどを行い、必要なサービスの提案などを行いました。ご入居者が昼夜問わず生活面、体調面で安心して過ごすことができるようサービス事業所との連携をさらに強化していきたいと考えています。

ご入居者の状態の変化に伴い退居されるご利用者も多く、ご入居者の入れ替わりの多い一年となりました。待機者の確保のためにも、法人内のケアマネージャーだけでなく他の居宅支援事業所にも積極的に挨拶回りを実施しました。

今後も、安心して生活が送れるよう感染症予防対策を継続しながらも、楽しみとなる機会を検討し、開催できるように努めてまいります。

養護老人ホーム　サンロイヤル広沢（全体総括）

「元気で、楽しく、心豊かに」

『運営方針』

◆　法人理念である「他人の痛みを我が身の痛みとして感じ、心の通う介護」に基づき、ご入居者がいつまでも「元気で、楽しく、心豊かに」生活できるよう、根拠のあるケアをさらに進め、アセスメントの強化及び、ケアプランの一層の充実を図ることで、ご利用者お一人おひとりが望む質の高い暮らしを実現するための「伴走型自立支援」に取り組みます。

◆　新型コロナウイルスの感染予防を徹底し、新しい生活様式に配慮しながら、ご入居者のさらなる身体機能の維持向上を図るための運動プログラムや、余暇活動を充実させるための各種クラブ活動を実施します。

◆　大規模災害発生時における業務継続を想定し、入居者の安心安全を最優先した備えに取り組みます

◆　外部サービス利用型特定施設として、ご入居者の意向のもと、適切に介護保険のサービスをご利用いただきながら、安心安全で自立した生活を営むことができるよう支援します。また介護保険サービスをご利用されないご入居者に対する生きがいづくりにも引き続き取り組みます。

◆　近年の多様化するご入居者の支援ニーズに適切に対応するため、措置機関や医療機関、その他地域の関係機関等との連絡調整及び連携を密に行うことにより、施設としてのソーシャルワーク機能を強化します。

◆　職員の専門性及び資質の向上を図るため、各種委員会活動や研修会等への参加、勉強会の実施等を積極的に推進します。また、職員間の協力・連携を更に図りながら、明るく働きやすい職場作りを進め、ご入居者・職員ともに笑顔でいられる施設を目指します。

◆　養護老人ホームを取り巻く状況が変化し、求められている役割も多様化する中、今年度の法人スローガン「つなげよう、希望ある未来へ」のもと地域共生社会においての養護老人ホームの役割も模索しながら、希望ある未来に向けて地域に必要とされる施設を目指します。

『総　括』

令和４年度も、新型コロナウイルスの感染予防対策のため、新しい生活様式に配慮しながらの生活が継続されました。外出制限や面会制限もあり、外部との交流が少ない状況が続きました。

今年度も措置入居者は減少し、年度末の措置入所者数は１０５名でした。待機者もいない状況が続いているため、空床を利用し養護老人ホームの機能を有効活用するために、今年度より契約入所を開始しました。当初は契約入所５名を予定してお

りましたが、利用希望者が予想より多く、延べ１６名の方にご利用いただき、年度末の契約入所者数は８名でした。お一人での生活が不安となり長期で利用される方や他施設の入所を待つ期間・ご家族の入院期間・暑い時期等、短期間でご利用をされる方も多くいらっしゃいました。

また、ご入居者は、重度の方が増えたため、重度の方への対応（看取り期を含む）についても強化し、住み慣れた環境で１日でも長く生活していただけるように努めました。

ショートステイについては、居住環境の悪化、虐待からの保護や体調管理面や栄養管理面の不安により在宅での生活が困難となったケースなど、多様な事由による受け入れを行い、延べ９４３日の利用受入れとなりました。

今年度も前年度同様、生活保護受給ケースや、医療ニーズが高いケース（精神疾患・癌等）、又はそれぞれが複合したケース等、入居理由は多岐にわたっており、個々のケースに対してのより細やかな支援を行うため、市役所をはじめとする各関係機関との連携・協議を密に行いながら、ご入居者が施設で安心して生活できるよう対応してまいりました。また要介護者の増加もみられることから、介護保険の外部サービスを利用しながら安心して生活していただけるよう、サービス利用内容や職員体制の見直しを行い外部サービス利用の充実を図りました。

身体機能低下の予防対策については、専門家による３Ｂ体操、予防体操、音楽療法やボランティアによるうたクラブを例年実施しておりましたが、今年度も新型コロナウイルス感染予防のため、ほぼ実施が出来ませんでした。また、外出制限もあり歩く機会も少なくなる等、身体機能低下の予防対策への取り組みに関しては、課題の残る年度でした。

アフターコロナを踏まえ、感染予防対策に配慮しながらも、コロナ禍前の生活に近づけるように努め、ご入居者がいつまでも「元気で、楽しく、心豊かに」生活していただける施設を目指し、職員が一丸となって努力してまいります。

養護サンロイヤル広沢　Ａグループ

「その人らしさを生活に」

『基本方針』

◆　その方の個性・人間性を尊重し、日々の暮らしに反映していきます。

◆　専門職としてのスキル向上を図り、職員同士尊重し合える環境作りをしてきます。

『総　括』

ロイヤルでの看取り対応が始まり、最期をここで看取った方が１名おりました。職員も初めての経験で、何をしたら良いのか分からない様子もありましたが、元気

だった頃のお姿を知っている職員も多く、その方の性格を理解し、出来る限り本人の思いに寄り添える事が出来ていたと思います。看取り期となった方への対応については、サンロイヤルだから出来る、福祉用具のレンタルや個々の職員が持っている情報等を有効活用し、お一人おひとりの最期にどう対応するか、その都度、多職種を交え話し合いながら検討していきたいと思います。

グループ内のご入居者の重度化が加速しており、その対応については、グループだけでは出来ない事も増えています。グループを越えた協力体制を作り、施設全体でご入居者の暮らしを支えていけるよう取り組んでいきます。

１年を通して、コロナウイルス感染症の影響で、中止になった行事や会議等多々ありました。年末にはグループ内で感染拡大があり、日々の情報を共有し迅速に感染対応を行う必要がありました。個々の職員が自ら情報収集し、日々変わる対応にも柔軟に応じる事が出来るようになっていました。

課題は多々ありますが、その人らしい生活の実現に向けＰＤＣＡサイクルを取り入れ検討しながら解決に向け行きたいと思います。

養護サンロイヤル広沢　Ｂグループ

「説得から納得へ」

『基本方針』

◆　担当ご入居者との関わりを一番に考え、本人の大切にしているものを理解し支援します。
◆　健康の維持を促す運動を積極的に行い、転倒予防に努めます。
◆　ご入居者自身が効果や根拠を元に、自立・自律した生活を送ることができるように支援します。
◆　納得した生活ができるよう、ご入居者とかかわる事を一番にします。
◆　自己決定ができるように懇切丁寧な説明を行い、ご入居者に合った選択肢を提供します。
◆　健康への意識を持てる運動プログラムを提供します。
◆　専門職として自らの行動に責任を持ち、課題や理由を考えながら行動します。

『総　括』

グループの入居者像の変化が顕著に見られた一年でした。具体的には今まで自立や要支援認定の方々が、要介護認定を受ける。今まで自分でできていた事ができなくなり、職員の支援がないと生活がままならないという方々が多くでてきました。その中で、職員同士がしっかりと声をかけあい、その時々にその方の支援をどうしていくかを迅速に対応ができた年でもありました。

今後の課題としては、コロナ禍で実施できなかった運動や外出などを積極的に行い、感染対策を行った上で、皆さんに楽しんでいただきながらADLの維持向上を図っていきたいと考えています。

養護サンロイヤル広沢　介護支援グループ

「心とつながる支援を目指して」

『基本方針』

◆　ご入居者が安心して自立した生活が営めるよう、ご入居者に寄り添い、ご入居者の立場に立ったケアプランを作成いたします。

◆　みえない不安をみえる安心に変え、多職種と連携しながら生活感のあふれる質の高いサービスを提供できるようにします。

◆　業務の見直しを定期的に実施し、適正化・簡略化を目指していきます。

『総　括』

介護の相談について声をかけてくれるご入居者が増えてきています。介護の相談は「支援グループ」という形ができていて、サービスに繋げられるように対応してまいりました。グループ内でミーティングの実施により、タイムリーに相談し適切な応答ができるようになってきました。

新型コロナウイルス感染症の影響にてサービスを一時的に休止せざるを得ない期間がありましたが、施設生活継続のため今後のサービスにつなげていく良いきっかけにもなったと考えています。

今年度、重度化がすすむ中で生じた職種間の視点の違いについては、連携を密に図ることで相互理解を深め、自立支援を念頭に置いたご入居者の援助を一体となって考え、より良い方向にいくよう取り組んでいきたいと思います。

養護サンロイヤル広沢　医務グループ

「生活を支える看護」

『基本方針』

◆　ご入居者が安心した気持ちで生活ができるように、お身体の事や病気についての心配事や相談事について、お話を伺って対応して行きます。

◆　嘱託医はじめ多職種と連携し、疾病の早期発見や治療への支援を行っていきます。

『総　括』

ご入居者が安心した気持ちで生活が送れるよう体調面での心配事・相談事を傾聴して参りましたが、ご入居者の重度化が進んできていることによって急に体調を崩されるかたが多くなってきました。嘱託医にも確実に報告ができ診てもらってきましたが、今後はより早期に状態変化に気付き、治療・完治ができるように多職種との情報共有が重要となっています。

今年度当施設においてコロナウイルス陽性者が数名でました。平常時から感染者が出た時の訓練を実施してきたせいか、陽性者を拡げることなく無事収束させることができ、教育・訓練の成果を感じました。

今後も他職種と連携を密にとり協働しながら、急な対応にも確実にできるように努めていきます。

養護サンロイヤル広沢　栄養グループ

「食を通じて免疫力アップ」

『基本方針』

◆　ご入居者の心身の自立への援助を「食」を通して行い「健康づくり・疾病予防」を目指します。

◆　ご入居者ひとりひとりの健康状態や嚥下状態に合わせた食事提供に努めます。

◆　給食の提供はグリーンヘルスケアサービス（委託業者）と連携を図り、安心・安全な食材の確保と衛生管理に努めます。

『総　括』

令和４年度は、昨年度に引き続き「食を通じて免疫力アップ」を部署理念としました。栄養素が不足しないよう、バランスのとれた献立作成を意識し、免疫力アップに努めました。

３施設共通献立も安定して提供できるようになり、都道府県郷土料理・リクエスト献立・お楽しみ献立・セレクト・中華の日等、バラエティーに富んだ食事提供ができました。行事は縮小されましたが、食事で楽しむことができたという意見もあり、喜んでいただけたのではないかと思います。

ご入居者の高齢化や重度化に伴い、食事の面でも個人対応を求められた一年でした。嚥下機能の低下による食形態の変更、ソフト食の提供を始め、施設職員・厨房委託業者と連携し、今後も可能な限りその方に合った食事提供を行いたいと思います。

ハーモニー広沢・ハートフル広沢（全体総括）

『自律し、成熟した専門集団を目指して』

『運営方針』

◆　法人理念、及びハーモニー・ハートフル広沢の『寄り添いながらの個別援助』の理念に則り、お客様が『最後まで自分らしく、自分が望むように暮らす』ことをめざした伴走型自立支援を実践します。

◆　それぞれの専門職が多職種との連携をより強化し、サービスの質の評価やデータの活用、ＩＣＴ導入の取り組み等を行いながら、エビデンスのある高品質な（満足度の高い）サービスの提供を目指します。

◆　働き方改革や今後の多様性にあふれた社会環境や人材に適応するため、柔軟且つ新しい発想を持ち、自らが変化する事を恐れず対応していきます。

◆　今年度の『**つなげよう、希望ある未来へ**』の法人スローガンのもと職員全員一致団結し、つながりや連携をより強化しながら、新しい発想と柔軟な対応で『**地域に必要とされる施設**』を目指します。

『総　括』

令和４年度はコロナ禍の真っただ中にあり、繰り返される新型コロナ感染症の波に対応するために、感染症対策を徹底しながらコロナ禍の中でも工夫しながら出来ることは何かを考え、少しずつ動きだした一年でした。コロナ対策においては、ご利用者ご家族に多くのご協力を頂きながら、職員一丸となって消毒や換気の徹底、職員とその家族を含めた体調確認、ワクチン接種や抗原検査の実施など、考えられる多くの感染予防対策に取り組みました。１１月にはデイサービスにてご利用者の陽性が重なり、多くの方々にご心配をおかけすることとなりましたが、日頃からの感染予防対策の強化と、ご利用者の利用自粛のご協力もあり、最短での終息に繋げることが出来ました。職員の感染についても、感染拡大時は家族からの感染報告が多くありましたが、ご入居者への感染の拡大は１例もなく、ハーモニーでの感染対策について職員が自信を持つ事ができました。

希望ある未来へ何をつなげていくのか、その内容は多岐にわたり、今も取り組みの途中とも言えます。介護現場におけるＩＣＴ機器の導入を進め、令和３年度の介護報酬改正から取り組んでいる、エビデンスに基づいた科学的介護に対応した質の高いサービスの構築のための『科学的介護情報システム（ＬＩＦＥ)』についても定着し、今後ご利用者ごとのフィードバックをどのように活用していくか、『ＬＩＦＥ』についての学びをさらにすすめながら、各専門職種の役割の再確認と連携の強化により、具体的なシステムや考え方の整理を行うことができました。

施設サービス部においては、ケアプランを中心としたＬＩＦＥの定期的なデータ入力を行うことで、変化に早めに気づき日々の支援に繋げることができ、ご入居者

の体調管理の強化が出来ています。カンファレンスの際には、より細かな情報をご家族にお伝えすることができ、コロナ禍のなか面会の制限があっても安心感をもっていただけ、『最後までハーモニーで』とご希望された１９名のご入居者の看取り支援を行わせていただきました。

在宅サービス部においては、サービスの役割を専門職種がしっかり捉えながら、機能訓練、栄養マネジメント、口腔機能などの強化をはかり、それぞれのサービスの活動内容を見直して、お客様のニーズや想いに添ったサービス提供に努め、サービス部全体の連携を強化することで、新型コロナ感染症の影響を受けながらも多くのお客様に満足の声をいただけた１年でありました。

ハーモニーでは今年度、インドネシアから４名の外国人材を受け入れました。文化の異なる新しい環境で、何事にも明るく積極的に取り組む新しい仲間から多くの良い刺激を受けています。

私たちが開設時より大切にしている、「地域の皆様とのふれあい」については、「認知症カフェけやき」の活動を不定期ながら２年ぶりに再開することが出来ました。アフターコロナの中、「新しいふれあいや、つながり」が少しでも多くなるよう、『地域に必要とされる施設』を目指し今後も努力してまいります。

特別養護老人ホーム　ハーモニー広沢（全体）

『ＰＤＣＡでつなぐ、生活満足度の高いサービス』

『基本方針』

◆　生活満足度の高いサービスを、ＰＤＣＡサイクルの実践により提供します。

◆　職員間の連帯力を強化し、働きやすく、誇りを持てる職場を作ります。

『総　括』

令和４年度は昨年の倍となる２２名の退居があり、うち１９名の方を施設で看取らせて頂きましたが、気持ちが揺れるご家族への対応や看取り期のケアを多職種で取り組むことができ、多くのご家族から、感謝の言葉を頂くことができました。入院も１２件と昨年に比べ増加しましたが、うち１１件は早期に施設に戻られ、安定した生活を取り戻すことができ、多職種の連携、ケアの質に自信を持てる結果となりました。

ケアの質の向上のために令和３年度より導入されたLIFE（ライフ）については、引き続き施設ケアマネ中心に入力を行い、施設全体に対するフィードバックを多職種で確認しました。ケアマネジメントにフィードバックの結果データを反映させていくこと、ＰＤＣＡサイクルに則ったサービス提供を進めていくこと、幅広く職員

がLIFEに関わり、個々のご入居者に対する共通理解を図ることを目指していきます。

新型コロナ感染症の影響で勤務体制が厳しい状況が続きましたが、職員の連帯力が発揮されたこと、またＩＣＴ機器の導入や業務整理による働きやすい環境づくりができていたことで、乗り越えることができました。また、職員一人ひとりが自分の役割を意識し、担うことで、外国人職員の受け入れや職員間の連携を強化することができたことも大きな成果です。

来年度は更に柔軟な発想を持ち、今後の介護報酬改定や社会環境の変化に対応できる施設サービス部を職員全員で創っていきます。

特養ハーモニー広沢　Ｂグループ

『生活リズムを共に奏でて』

『基本方針』

◆　ケアの状況について定期的に評価する機会をもち、ご入居者の生活課題を解決していきます。

◆　安心して生活していただくために、住みやすい環境をつくります。

『総　括』

令和４年度はご入居者の普段の様子の変化に素早く気づくために、ご入居者の生活リズムの理解や日常的な観察に努め、チームで情報を共有することに力をいれました。体調の良い方には個別機能訓練をかねて、短時間でも外気浴や散歩をしていただくなど、コロナ禍であっても小さな楽しみをつくれるように工夫を重ねました。また変化に気づいた時には、ご本人ご家族のご意向を確認し、専門職間で相談しながら、適切な支援につなげました。ICT機器の利用も進み、見える化した申し送りでの情報共有で、最後まで安心して生活していただくための支援に努めました。

トランペットユニット

『援助方針』

◆　日常の関わりからご入居者の小さな変化に気付き、多職種からなるチームで原因を探求し、課題解決を行います。

◆　職員は、互いを認め、尊重し合い、協力し合いながらスキルアップを目指します。

◆　整理整頓を行い、清潔な環境で生活できるようお手伝いします。

◆　福祉用具の点検を定期的に行い、安心・安全な暮らしを提供します。

『総　括』

新型コロナ感染症の影響で職員が少ない時期でも、日々の楽しみの行事を大切にして、おおむね予定どおり行事に取り組むことが出来ました。屋外での行事では、ご入居者の笑顔も多く、特に楽しんでいただきました。

新人職員の多いユニットの為、年度初めの会議では積極的な意見も少なかったのですが、徐々にご入居者の小さな変化や具体的な支援、日々の疑問や意見などが積極的に出され、その都度話し合い協力することができ、結果としてご入居者の状態に合わせた支援を適切に行うことができました。今年度は、６名のご入居者の看取り支援を行いましたが、職員間で協力し、かかわることができました。

また、お部屋の整理整頓など担当職員がしっかり行い、ご入居者に対して過ごしやすい環境を提供できました。車椅子の定期的な点検も行い、ご入居者が安全に過ごすことができました。

バイオリンユニット

『援助方針』

◆　データを活用したアセスメントを行い、根拠のあるチームケアを行います。
◆　職員は、ご入居者の課題解決に向けて、情報共有と対話を重視し、ケアサービスの過程を共有します。
◆　ご入居者の使いやすさに配慮した居室の設えを提案し、整理整頓を行いながら住みやすい環境を作ります。
◆　職員は、ご入居者の日課を大切にし、望む暮らし方や自立支援につなげます。

『総　括』

行事についてはご入居者に、コロナ禍の中でも季節を感じて頂きたい、美味しい物を召し上がって頂きたい、喜んで頂きたいと考え、それぞれの担当職員が行事を立案し、実施しました。

環境面では、ユニット内清掃について年度初めに統一し、ご入居者の身の回りの清掃や整理整頓を担当職員が中心となり責任を持って行いました。職員全員が環境美化や整理整頓を当たり前の様に意識して業務に従事できたので、綺麗な環境の中でご入居者に過ごしていただく事ができました。

毎日のケアについては、多職種で対応を検討し、申し送りで情報共有を行うことで、一人ひとりに合わせた、その人らしい生活を送って頂けました。しかし、職員の介護経験や勤務年数などによる技術や知識に差から、「出来て（知っていて）当たり前」と思っていた事でも、「知らなかった、どうすればいいか分からない」といった事がありましたので、「分からない、知らない」を無くしていくために、介護技術の知識を得る場や情報共有のしくみを強化していきます。

特養ハーモニー広沢　Ｃグループ

『安心して過ごせる環境作り』

『基本方針』

◆　実施したケアの振り返りを行ない、ご入居者に安心・快適な生活を送っていただきます。

◆　業務改善を継続し、働きやすい職場環境を目指します。

『総　括』

令和４年度も新型コロナ感染症拡大により、ご家族との面会が制限される時期が長く続きました。ご入居者ご家族に不安なく過ごしていただけるよう、ご入居者との丁寧なコミュニケーションを行い、ご家族へのこまめな連絡、報告、相談を心がけました。コロナ禍においても安心して最期までお過ごしいただけることを目標に、６名のご入居者の看取り支援に関わらせていただきました。

働きやすい職場環境を目指し、業務の見直しを行い、職員アンケートを取りながら業務改善を積極的に行いました。その結果時間にゆとりができ、業務の流れがスムーズになり、昼食前の簡単な体操の時間が出来たことで、ご入居者の楽しみにつながりました。

新型コロナ感染拡大が厳しい時に、職員の感染や濃厚接触などにより職員の休みが重なった時にも、サービス提供の継続を図るため、状況に応じた業務見直し等で乗り切ることができました。

ベットセンサー等のＩＣＴの導入をし、ケアの質向上と業務負担軽減を目指す取り組みについては、今後も継続した取り組みを行っていきます。

ハンドベルユニット

『援助方針』

◆　担当職員が中心となり、ユニット会議で日々のケアの振り返りを行います。

◆　ご入居者、ご家族の想いやこだわりを大切にし、笑顔で安心した生活が送れるよう、支援していきます。

◆　業務構成を見直し、グループ間で協力しご入居者のケアを行なっていきます。

◆　職員が抱えている不安や悩みを気軽に話し合える環境をつくり、チーム全体で改善に努めていきます。

『総　括』

今年度は２名の看取り支援を行ないました。リーダーだけでなく、担当職員が中心となってご本人やご家族からご意向を伺い、看護師や機能訓練指導員等の多職種

連携で細かなケアに繋げることができたことで、ご家族から感謝の言葉や満足度の高い看取り支援であったとの評価をいただけました。

また、グループ間の協力関係は良好で担当ユニットに関係なく、ご入居者支援が重なった時や休憩時等に職員同士で声を掛け合いながら業務に従事でき、業務改善についても職員それぞれが意見を出し合い改善につながりました。課題はまだありますが、良い職場環境づくりへ近づいた１年でした。

行事では新型コロナ感染症の影響もあり開催できない月もありましたが、行事を行なう際はご入居者に食べたい物ややりたいことを伺いながらご希望に沿った行事を行なうことができ、たくさんの笑顔をみることができました。今後も暮らしの中でご入居者やご家族との笑顔の時間を共有しながら、関係性を密にした質の高いサービスの提供を目指します。

タンバリンユニット

『援助方針』

◆　ご入居者の状態変化に合わせて、ご家族・他職種と話し合い、支援の方向性を明確にすることで、根拠のあるケアを提供します。

◆　ケアプランの確認・更新は定期的に実施し、ケアの振り返り、見直しを強化します。

◆　ユニット・部署・職種の垣根を越えて、職員間の協力・連携を強化します。

◆　ユニット内の課題を毎月アセスメントし、業務改善に繋げていきます。

『総　括』

ご本人、ご家族の意向を大切にし、職員間で話し合いを重ねながら、入居者４名の看取り支援を行ないました。

新型コロナ感染症対策や職員の休暇の増加、ご入居者の入れ替わり、それに伴う業務改善と目まぐるしい変化のある年でした。特に業務改善と働きやすい職場環境づくりについては、皆で話し合いや意見交換を行い、業務を変更した後には振り返りを行って、さらなる改善を行いました。皆で取り組む事により一人ひとりが責任を持ち、職員同士の方向性の統一や連携力の強化も図れ、大変有意義な価値ある時間でした。今後もコロナ関連や感染対策含めさらなる変化に対応するため、ユニット、グループとしての職員間の協力を強化していきます。

特養ハーモニー広沢　Ｄグループ

『笑顔で暮らす』

『基本方針』

◆　ご入居者一人ひとりに寄り添い、「心が満たされる」時間をつくります。
◆　アセスメントの充実をはかり、PDCA サイクルを実践しながら、根拠に基づいたケアを提供していきます。

『総　括』

新型コロナ感染症拡大によりご家族の面会が思うようにできず、ご家族にご迷惑をかけた時もありましたが、カンファレンスや面会時には、ご入居者の状態を少しでも多く伝えられるように努めました。

ご入居者、職員間でのコミュニケーションの機会を多く持ったことで、グループでの笑顔が多くなった１年でした。ご入居者の状態が変化しても、ケアマネージャーが中心となり PDCA サイクルを意識しながら根拠に基づいたケアが提供でき、職員間の連携でご入居者にとって統一した支援が出来ました。

行事についても職員間で考え、ご入居者の楽しめる行事を行いました。

ピアノユニット

『援助方針』

◆　季節を感じられる行事を行い、ご入居者の笑顔を増やしていきます。
◆　ご入居者との会話の時間を大切にし、笑い合える関係性をつくります。
◆　ご入居者の小さな変化やサインを職員間で共有し、支援に繋げていきます。
◆　グループで協力し合い、日々ケアの質の向上に努めていきます。

『総　括』

毎月行う行事では、ご入居者に四季を感じて楽しんでいただけ、笑顔がたくさん見られた一年でした。中でも、紅葉外出や合同での花火大会、クリスマス会などは、ご入居者だけでなく、職員にとっても気分転換や楽しみの時間となりました。また、外国人技能実習生に母国のインドネシアのお菓子を作ってもらい、ご入居者に召し上がっていただいた時には、皆さん興味深く「美味しいね」と大変喜んでいただけました。

技能実習生が入職してからますます、日々のケア時のご入居者と職員の会話が増えました。ご入居者の好みや状態の変化に早く気づき、ケアマネージャーを中心に支援に繋げることが出来ました。

今年度ピアノユニットでは、２名の看取り支援を行いましたが、ご本人の要望を

お聞きし、最後まで寄り添い、穏やかに過ごしていただけたと思います。
　今後も、ご家族との関わりを大切にし、ご入居者の笑顔を引き出すことができるような支援に繋げていきます。

トライアングルユニット

『援助方針』

◆　日々の会話を通してご入居者の意向を伺い、生活の中に充実した時間をつくります。
◆　ご入居者が季節を感じ、楽しく参加できる行事を行います。
◆　ケアプランの更新、確認、支援内容の見直し等の強化で、ご入居者・ご家族に意向に沿った支援を実践します。
◆　職員一丸となって、ご入居者一人ひとりに最適なケアが出来るよう情報を共有していきます。

『総　括』

　外出やご家族との関わりが制限される中、施設内で過ごしているご入居者にいかに季節を感じ、また日々の生活を楽しんで頂くか、ユニット職員と常に話し合い持ち、また、多職種の職員とも意見を交換し総合的に入居者にあった支援を行ないました。
　行事に関しては、一番の楽しみである食事関連の行事はもちろん、花火行事やクリスマス、新年会行事等で、ご入居者の笑顔が多く見られ楽しい時間を過ごしていただけたと思います。今後も食事関係の行事ばかりに偏らず、外出や日常生活と絡めた活動をより意識した行事を検討していきます。
　ご入居者の重度化により多くの支援を必要とされる方が増え、ユニットご入居者ひとり一人に合わせた支援を適切に行うための業務改善や、支援方法の再検討を各担当職員が中心に行いました。また、ご家族様との関わりについて定期的に連絡を取り合えることを目標にしていましたが、ケアプランの更新時や面会時のみと限られたときにしか関わりが持てなかったため、今後は定期的な連絡を取り合いながら意向を伺い支援に繋げていきます。

ケアハウスグループ（ハートフル広沢）

『居心地の良い住まいを作ろう』

『基本方針』

◆　一人ひとりのできることを活かした活動を、生活の中に取り入れます。

◆　職員の専門知識の向上を図ります。

『総　括』

令和４年度も感染症対策を行いながら、日々の生活の支援、行事を実施しました。映画鑑賞会など好評な行事が多く、コロナ禍の中でもできることを見つけていくことの大切さを感じました。

ケアプランについては新任のケアマネージャーがケアマネジメントの流れを把握し、ご入居者一人ひとりにしっかりとアセスメントを行うことで、本人の状態に合ったプランを作成することができました。今後はLIFEからのフィードバックの活用も行っていきます。

転倒による骨折や状態が急激に低下したご入居者が重なり、介助量が増えた時期は全体の業務整理を行いケアの質を確保していくこと、介護職員の負担を軽減していくことに取り組みました。その中で早めに介護度の見直しを行うなど先を見越して動き始める事も行いました。今後も行っている内容を検証し、今までの考えに捉われず、アップデートし続けていきたいと考えます。

また面会制限の中、入居者が家族と顔を合わせる機会が少なく、状態の変化をどのように伝えていくかが課題となっていましたが、電話で日常の様子をこまめに伝え、ご家族が施設に来た時にも会話の中でしっかり伝えていくことに取り組みました。

ハーモニー広沢　医務グループ

『チーム力で支える』

『基本方針』

◆　コミュニケーションと情報共有を積極的に行い、チームでご入居者、職員の安心・安全を支えます。

◆　専門職として根拠、データを重視し、ケアの質の向上を支えます

『総　括』

令和４年についてもコロナに始まり、コロナに終わった１年でした。繰り返される感染症の波、その中でも入居系においてご利用者の新型コロナ感染がなく、クラ

スターが発生しなかった事は、職員一人ひとりの感染対策や、職員間の協力の成果であると強く感じております。今後も感染症に対する正しい知識を学び、伝え、ご入居者・ご家族、職員の不安を軽減していきます。

褥瘡については、退院者の持ち込み褥瘡を含め発生件数が多い年となりましたが、施設全体で早期発見、発生防止に取り組み、減少傾向にあります。引き続き、ハイリスク者の情報共有、早期の対応を多職種で取り組むことを徹底していきます。

令和４年度はご入居者の入れ替わりが多い年となりました。多職種で意見交換を行いながら、生活リハビリや口腔支援などの個別の支援を行い、ハーモニーで出来る限り長く、お元気ですごしていただくことを基本として関わらせていただきました。また、最後までハーモニーでの暮らしを望まれた方には、その人らしく最期まで、穏やかに生活できるような看取り支援を行うことができました。

今後もご入居者、ご利用者の気持ちに寄り添い、健康を支えながら、安心して気持ちよく１日が過ごせるよう、医務グループのチーム力を強化していきます。

ハーモニー広沢　栄養グループ

『食を通じて、お客様一人ひとりと向き合います』

『基本方針』

◆　一人ひとりの健康状態に合わせた食事提供を行います。

◆　できるだけ最後まで口から食べていただけるよう努力します。

『総　括』

令和４年度は食材費の値上げが続き、残菜の確認や調理の工夫など食材の無駄をなくす努力を行いました。家庭的なメニューと味付けで美味しく食べて頂くことを基本としながらも、その中に行事等を入れて「食の楽しみ」をより感じていただくメリハリをつけた献立を心がけました。

3 施設共通メニューになり、種類も増え、伝統行事や旬の食材を取り入れた献立で、季節感や食事の楽しみを感じて頂けています。また郷土料理を取り入れることで、会話もはずみ、楽しい雰囲気を提供できました。

コロナウイルスの影響により、握り寿司などの厨房調理師がユニットに行って行う調理は出来ませんでしたが、散らし寿司や丼物など厨房で盛り付けるメニューは、見た目もきれいに提供でき、ご入居者･ご利用者に大変喜んでいただけました。

栄養マネジメントに関しては、各部署に多く出向き、ミールラウンドによりご入居者の状態や嗜好を観察しました。カンファレンスに参加し、多職種と連携しながら、その方の状態に合わせた食事内容、改善の提案を素早く行うことが出来まし

た。お体の様子が日々変化する中で、厨房業者に協力をして頂き、柔軟に対応できました。

看取りの方には特に職員間での話し合いを重ね、できるだけ最後までお口から食べていただく支援を、多職種と協力して行えました。

ハーモニー広沢　ショートステイグループ

『居心地よい場所と満足を目指して』

『基本方針』

◆　ご利用者に合わせた関わりをしていきます。

◆　泊まって満足していただける環境にしていきます。

『総　括』

今年度は『居心地よい場所と満足を目指して』というスローガンを掲げ、運営を行いました。新しい寝具やマットレスの入れ替えをおこない、ご利用者から「綺麗でとても良かった」とお話をいただけました。環境面だけでなく、関わりや支援内容等についてもお客様ごとの個別性や満足感を職員間で意識することで、新規の契約件数も増加し、その後に再度利用していただける方が多くいらっしゃいました。

ご利用者の排泄パターンを把握するとともに排泄用品の見直しを行うことで、ご利用者にとって適切な時間で排泄支援に入ることができるようになりました。年度を通じて少しずつ業務改善の取り組みを進めた結果、職員がご利用者と座って過ごす時間が作れるようになり、ご利用者のご要望を反映した行事の実施につながっています。

今年度はショートステイでの看取り支援もおこない、介護職員と看護職員が一体となり、ご利用者の最期を穏やかに迎えるお手伝いができたことはショートステイにとって大きな前進となりました。

新型コロナ感染症においては１月に、職員数名の感染がありました。しかしご利用者への感染なく運営ができ、初動の対応や日頃の感染対策の成果を実感できました。

ハーモニー広沢　デイサービスグループ

『　誇れるサービスを未来まで　』

『基本方針』

◆　あいさつや礼儀を徹底し、感謝の気持ちを持って笑顔で丁寧な対応を行います。

◆　未来まで愛される取り組みと、充実した空間で、ご利用者の暮らしを支えます。

『総　括』

令和４年度は、「運動、口腔、栄養」を一体的に実施ができるよう専門職種との連携を強化した運営を行いました。機能訓練では実施場所や設え、内容の見直しをおこない、コロナ禍での感染予防対策としての屋外での体操や、ポールを使用してのノルディックウォークを取り入れ、マンネリ化の防止や機能訓練の幅を広げました。室内で行う機能訓練では筋力トレーニングマシーンを導入し、機能訓練室の設えをスポーツジムのような雰囲気に変えたことでご利用者の運動意欲向上にもつながり、自発的に運動をする方が多くなったことを実感しています。口腔については日々の口腔体操や口腔ケアだけでなく、嚥下機能や発語が向上するような訓練プログラムの導入や実施を進めました。今後はより専門的な視点も取り入れながらプログラムの充実をはかります。栄養についても管理栄養士を中心にアセスメントを行い、高リスクの方に栄養指導をすることで、「いつまでも元気な体作り」の指導がおこなえました。

令和４年度は、新型コロナ感染症の影響を大きく受けましたが、「ご利用者の満足」について職員全員で常に意識を持ちながら運営をおこなえました。礼節面においても感謝の気持ちを持ち、ご利用者と真摯に向き合い、笑顔で接することができました。今後はサービスのさらなる付加価値を追求していくとともに今、実施できていることもアップデートし、ＳＮＳも活用しながら発信していきます。

ハーモニー広沢　ホームヘルプサービスグループ

『安心した毎日を送るために』

『基本方針』

◆　ご入居者が安心して生活ができるよう、ホームヘルパーとしての自覚を持ち、ご入居者に寄り添ったサービスを行っていきます。

◆　各種サービス機関との情報共有を密にし、担当者会議等を通してご入居者、ご家族の声（思い）にしっかりと耳をかたむけ、笑顔と安心のサービスを速やかに提供いたします。

◆　ご入居者に最良のサービスが提供できるように、自己の研鑽に励みサービスの質の向上を図ります。

『総　括』

今年度はご利用者、ヘルパー共にコロナ感染症や濃厚接触者となったため、サービスの中止や変更が必要な状況となり、いつもより増してサービス提供が厳しい状況となりましたが、ご利用者に適切なサービスが提供できるように努めました。

ご利用者の高齢化に伴う日常生活動作能力の低下により、介護が必要な方が増え、

また生活習慣などで支援が必要なケース、精神疾患などにより見守りが必要なケースなど支援の多様性が増しています。また施設を終の棲家と考えるご入居者が少なくないことから、健康寿命を延伸できるよう自立支援に努め、利用者が安心して穏やかに過ごせる環境づくりに努めました。

職員のコミュニケーション能力を培い、相手の気持ちを理解し個々に寄り添い支援できるよう接遇力の向上に取り組みました。

ハーモニー広沢　居宅介護支援グループ

『安心を繋げます！明日もその先も』

『基本方針』

◆　住み慣れた地域でその方らしい生活が最期まで続けられるように、私達だから出来るお手伝いをしていきます。

『総　括』

新メンバーでスタートした令和４年度は、新型コロナ感染症の影響を受け、病院の面会禁止や自宅訪問の時間短縮を余儀なくされた事も多くありました。訪問時にはタブレットの活用を積極的に行い、保険証の写真撮影やご自宅アセスメント為の写真撮影、サービス事業所のホームページを提示したわかりやすい紹介などを行いました。今後は担当者会議やモニタリング時にも、ノートパソコンやタブレットを有効に活用できるよう勉強会や話合いを進めていきます。

今年度の新規依頼は、介護度が高い人が多かった事が特徴でした。要因として、ショート希望者や病院から退院後の支援依頼が多くあったためと考えます。重中度者の方は、ご本人が持つ課題だけでなく、ご家族の持つ課題も多く、きめ細やかな支援が必要になります。些細な行き違いから大きなトラブルに発展するケースや、ますます多様化する個々のニーズや課題に対して、ポイントを踏まえた個別支援を、サービス事業所等との連携を強化することで対応できました。

サービス付き高齢者向け住宅　グレイス広沢

『「安心のサービス」と「優れた居住環境」を提供いたします』

『運営方針』

◆　職員一人ひとりがご入居者の思いに寄り添い、ご入居者が笑顔で過ごすことが出来るよう、他部署・他職種と連携し、各種サービス提供と環境づくりに取り組みます。

◆　ご入居者お一人おひとりの思いを実現できるようご本人の意向に合わせた自立支援を追求し、生活満足度の向上を目指します。

◆　感染症や災害への対応を万全なものとし、ご入居者ご家族の安心・安全なサービスの確保に努めます。

◆　自己研鑽を行い、柔軟な発想で変化に対応できる力の育成に努めます。

◆　地域に密着した施設を目指します。

グレイス広沢　生活支援グループ（サービス付き高齢者向け住宅）

『困りごとには迅速に対応し安心のサービスを…』

『基本方針』

◆　毎日が笑顔で過ごせるよう関係機関と連携し、安心していただけるサービスの提供に努めます。

◆　「新しい生活様式」を継続し、その中でも皆様が楽しめる機会を検討し提供していきます。

◆　感染症対策など、職員の対応が統一できるよう、研修を行なっていきます。

◆　グレイスホールを地域の皆様へ開放し、気兼ねなく活動が図れる環境の場として提供いたします。

『総　括』

令和４年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に尽力した一年でした。ご入居者や職員から陽性者が出た際には各施設、各部署から応援をしていただき、また、拡大した際には保健所やＣ－ＭＡＴからのサポートを得ながら収束に向けた取り組みを行いました。

また、職員のシフトの見直しをはじめ、ご入居者にも一定期間外出を控えて頂くなど感染予防強化へと協力していただきました。今後も引き続き、ご入居者、職員のストレスケアも考えながらコロナ禍における感染予防を念頭においた取り組みを継続していきたいと考えています。ご家族との関わりについても、状況に合わせた柔軟な対応を行い、関係性の構築に向けて取り組みを行い、ご入居者・ご家族との信頼関係

を築くために窓口での積極的な声かけやお知らせの掲示、ご家族に郵送などで状況の変化に合わせた対応を行いました。また、面会制限によるウェブ面会の実施など感染症対応について、その都度説明を行い、ご理解を得られるように努めてまいりました。

食事のイベント行事では、密にならないように各階で提供をさせて頂きました。食事は、毎日の楽しみや季節感を感じられる重要なポイントとなるため、今後も献立に趣向を凝らし、器や盛り付けも工夫し、見た目でも味でも楽しんでいただけるような取り組みを行っていきたいと考えています。そして、ご入居者がさらに楽しんでいただけるようにご入居者を含めながら新たな取り組みに努めてまいります。

グレイス広沢　ホームヘルプサービスグループ

『自分らしい生活のために…目配り・気配り・思いやり』

『基本方針』

◆　ご利用者の望む生活を支援します。
◆　安心できる生活を提供します。
◆　信頼される事業所を目指します。

『総　括』

令和４年度は、新型コロナ感染症予防を継続して行い、訪問時にはご利用者の体調確認などを実施し、その際に様子の変化が見受けられた際には、迅速に関係各所へ報告を行いました。その結果、連携や協力体制が強化され、新型コロナ感染拡大防止につながり、ご利用者が住み慣れた場所での生活を継続することができました。

一方、長い間の行動制限により、ＡＤＬの低下や精神面等の状態変化での入院や、在宅生活を継続することが難しくなり、他の施設への入居のためにサービスを終了される方もおられました。今後は、新規ご利用者獲得に向けて居宅支援事業所、地域包括支援センターへの宣伝活動を積極的に取り組んで行きたいと考えます。

年間の研修については、感染予防に努めながら伝達研修等を中心として行ない、今後はアフターコロナの中でご利用者の自立支援に向けた、実技的な研修や専門職としての知識向上を図る研修などにも取り組んで行きたいと考えます。

グレイス広沢　定期巡回・随時対応型訪問介護看護グループ

『介護と医療がつながって笑顔で暮らせる毎日を』

『基本方針』

◆　住み慣れた地域で安心した在宅生活が送れるよう支援していきます。
◆　介護・看護・地域との連携を図り２４時間体制で支援していきます。
◆　状況に応じた感染症対策が行えるよう演習を行い、実践できるよう取り組みます。

『総　括』

令和４年度はご利用者からも新型コロナウイルス感染者が確認されましたが、関係各所との連携・協力を図り感染症対策を徹底し支援を行ったことで、感染者の重症化を防ぎ、在宅での生活を継続する事が出来ました。感染症対策については連携先の訪問看護事業所の看護師からガウンテクニックや手指消毒、手洗いなどの指導を受けて職員ひとり一人が予防対策を意識することで感染拡大を抑える事が出来たと感じています。

また、長引くコロナ禍の影響で活動不足によるご利用者の身体機能の低下等が見られ、身体的な支援が増加し在宅生活に不安が見られるご利用者もいらっしゃいました。それに対して２４時間柔軟に対応するサービスの特性を生かし適切なアセスメントやモニタリング、スタッフ会議内での情報共有、支援内容の検討を迅速に行い対応しました。

また、ケアマネージャー、訪問看護、サ高住・ケアハウス職員とご利用者の支援内容について情報共有や連携を図ることで、安心した生活を送っていただけるように取り組みました。今後もご利用者が住み慣れた場所で生活が送れるように介護、看護、地域との連携を図り、サービス提供をしていきたいと考えます。

グレイス広沢　訪問看護グループ

『在宅で自分らしい生活を継続し、ご利用者やご家族が
笑顔で安心した療養生活を送れるよう支援します』

『基本方針』

◆　ご利用者が住み慣れた自宅で、可能な限り自分らしい生活が送れるよう、心身機能の維持回復、生活機能の維持ができるよう支援します。また、明日への活力となるかかわりが持てるよう、ご利用者・ご家族と信頼関係の構築に努めます。
◆　関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービスなど他職種との連携を密に図り、ご利用者の生活に必要なサービスの提供に努めます。
◆　職員の資質向上を目指し、個人研修計画を作成し、専門職としての研修の参加と施設内研修を実施します。

『総　括』

令和４年度は理学療法士による訪問看護のリハビリが開始となり、専門職によるリハビリを受けることで身体機能が向上し、在宅での生活に張りが持てる様になったとご利用者からお声をいただきました。サービス内容にリハビリが加わったことでサービスの幅が広がりました。

今年度はご利用者に新型コロナウイルス陽性者が発生しました。ご利用者への連絡や関係各所への連絡の他、法人内各施設との協力で新型コロナ感染予防対策を適切に行うことができ、感染拡大を防止することができました。日頃から感染対策に対する意識を持つことが改めて重要であると感じました。

長引く新型コロナウイルス感染症の影響で、訪問時、ご利用者から面会や外出の制限、感染防止対策などにより不安やストレスがある様子が伺えました。また、活動不足によるＡＤＬの低下、筋力低下、意欲の低下などが見られました。引き続きご利用者の精神面のフォローや体調管理に努めていき、住み慣れたご自宅で体調を整え、安心した生活が送れるよう、支援していきたいと考えます。